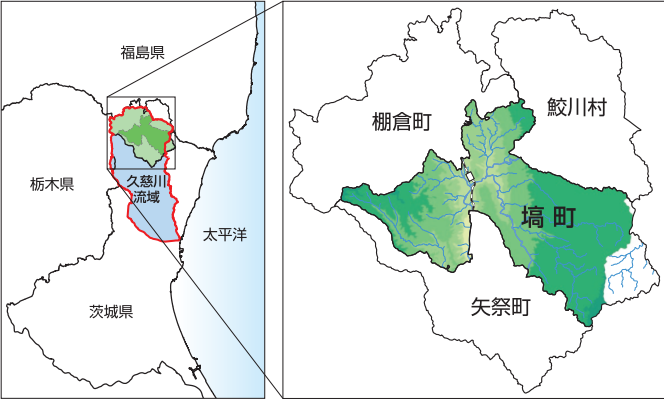


久慈川源流域資源マップ(埴町編)

このマップは、5枚で構成されるうちの1枚で、埴町の久慈川源流域地区にまつわる資源をまとめたマップです。

自然は、多くの人にやすらぎと優しさを提供してくれるものです。歴史は、先人達が積み重ねてきた証であり、これからも続いていくものです。民話や伝説・言い伝えのような形として目に見えないものも、人の歴史や暮らしを伝える貴重な財産です。これらの大切な資源を、私達が後世に伝え残していくことは重要であると考えます。

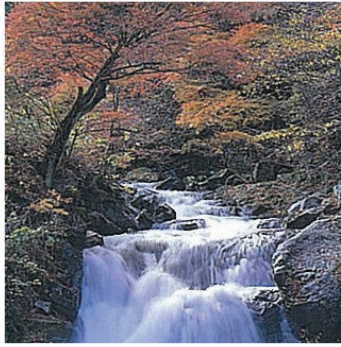


ふるやまこうえん 風呂山公園



日露戦争終戦後の荒廃期に、埴の青年会員が自らの手で、町の希望の木として「山ツツジ」を植えたのが始まり。風呂山は、別名「青年山」とも呼ばれ、春には約 3,000 本のツツジが全山を真っ赤に染める。

なぐらがわけいこく 那倉川溪谷



県道 27 号線（埴大津港線）沿いを流れる久慈川の支流川上川の支流で那倉川に位置し、滝や溪流が楽しめる自然豊かな溪谷である。新緑や秋の紅葉がすばらしい景観を提供してくれ、県内外から訪れる観光客を魅了する。

えん ダリア園



約 7,000 平方メートルの敷地に、約 300 種、5,000 株の大輪中輪のダリアが夏から秋にかけて咲き、県内外から多くの観光客が訪れる。ダリアは埴町の花にも指定されており、手作りのダリア染めハンカチは、町の特産品となっている。

はなわまちさんぎょうさい 埴町産業祭



平成 2 年から開催されている農・工・商のお祭り。久慈川で俵付きいかだを引いて競い合う「水上俵引き」は、1984 年、江戸幕府から通船許可があり、江戸まで舟で年貢米を運送しようと試みた歴史を再現したものである。

くしがわかせんじき さくらなみき 久慈川河川敷の桜並木



久慈川堤防沿いのサイクリングロードの全長 1.5km の区間に約 120 本の桜が植えられている。約 40 年前に、地元商工会が中心となり植樹されたと言われており、桜の季節はもとより、四季折々に変化する川面や周りの水田、山々などの景観が楽しめる。

むこうがおかこうえん 向ヶ岡公園



寛政 5 年（1793 年）、名代官と言われた寺西重次郎封元により、救民事業として作られた日本最初の庶民公園と言われている。園内には公園の完成に際して植えられたヒガンザクラとエダシダレザクラがあり、県の天然記念物に指定されている。

※地図中の○番号の資源は、裏面に説明が記載してあります。

久慈川源流域資源マップ (埴町編)



晩秋の久慈川

福島県県南建設事務所

◇参考文献

『埴町史』埴町教育委員会
『時代の響きー埴町の文化財ー』埴町教育委員会
『心をつなぐはなわの郷土誌』
『殿畑トヨばあちゃんのむかしばなし 第1集』
『東白川郡のざっと昔』ざっと昔を聴く会
『久慈川風土記 上』筑波書林
『久慈川風土記 下』 //
『久慈川上流』ふだん記グループ

◇本マップの作成について

本マップは、久慈川源流域（源流域の里）に位置する棚倉町・埴町・矢祭町・鮫川村の地域活性化の一環として、「平成21年度久慈川流域資源マップ作成検討会」で作成したもので、埴町の久慈川流域にある地区の、魅力ある資源について紹介しています。

◇観光情報について

埴町ホームページ

<http://www.town.hanawa.fukushima.jp/>

新白河広域観光連盟

<http://www.shirakawa.jp/>

協力 『久慈川流域資源マップ作成検討会』の皆様方
発行年 平成22年3月
発行者 福島県県南建設事務所
福島県白河市昭和町269番地
TEL (0248) 23-1617



かいがせき
①貝化石

久慈川の支川、渡瀬川のさらに支川の赤坂川や西川の川沿いでは、約2000万年～2500万年前の暖かい海水に住んでいた貝の化石が多く出土している。貝が原型をとどめたまま出土されることもある。



はくろやま
②羽黒山

標高364mの羽黒山一帯に残る戦国山城の跡。福島県南部では最大規模の城郭で、八幡太郎義家が築城したとされている。築城は南北朝騒乱の前後と見られ、室町末期には大塚氏を名乗る佐竹氏一族が四代にわたり在城した。



やくおうじやくしどう
③薬王寺薬師堂

寛政2年(1790年)に建立されたと伝えられている。米山薬師信仰が盛んだった頃、米山山頂にあった奥の院の祭殿として営まれたことから「御飯屋」という呼び名が残っている。境内にある大イチョウも有名。



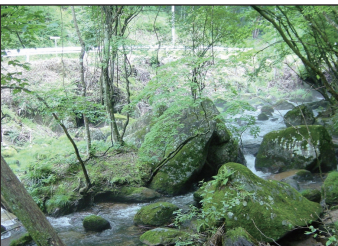
げんばちざんりゅうたくじ
④源八山龍澤寺

にしこうど
西河内字竜ヶ沢にある寺院で、天喜元年(1053年)に開山され文亀元年(1501年)に現在の曹洞宗として再興され龍沢寺となった。いくつかの義家伝説に登場する竜の骨が本堂に保存されている。



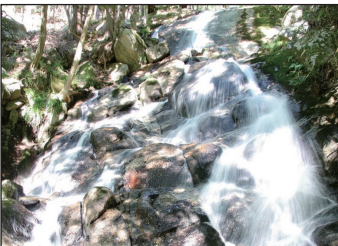
もり げんりゅう
⑤ふれあいの森・源流

久慈川の支流川上川の水源地からは、岩の間から冷たい水がわき出ており、「天女の泉」と名付けられている。遊歩道途中には、「仙女の滝」があり、野鳥が数多くいる。



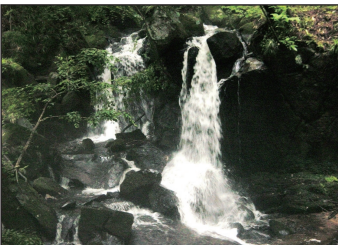
はち
⑥かっぱのすり鉢

片貝川沿いの遊歩道を約2kmほど歩いたところにあるすり鉢状の岩。川の中の岩に自然にあいた穴がすり鉢に似ていることから、この名が付けられた。



ふどうだき
⑦不動滝

ゆじまたおんせんきょう
湯岐温泉郷近くにある落差約20mの滝。規模はそれほど大きくないものの、木々に囲まれた山の間を穏やかに時に激しく流れ落ちる光景を見ることができる。季節により流れの変化が楽しめる。



かみなりだき
⑧雷滝

ゆじまたけいこく
湯岐渓谷にある滝で、滝の中央部が岩で隔てられており2条に落下する落差約3mの小滝である。滝の名前は地元の人々によって平成16年に付けられ、現在は、滝つぼまでの遊歩道が整備されている。



はなわ もり
⑨埴・ふれあいの森

埴町市街地の西部に位置する森林公園。ソメイヨシノやヤマボウシなど26,000本が植えられ、四季を通して様々な花が楽しめる。「いこいの森」、「散策の森」、「眺望の森」もあり、キャンプ場も併設されている。



こうげんびじゅつかん
⑩あぶくま高原美術館

那倉小学校の校舎を改修し、地域間の交流の場として平成16年に作られた美術館。1階の展示室には、埴町内の絵画等の愛好者の作品が、2階の常設展示室には埴町出身の画家杉三郎氏と書家で名誉町民の鈴木清水氏の作品約80点が展示されている。



でわじんじゃさいれい
⑪出羽神社祭礼

11月3日に3年毎に行われる大祭。江戸時代には祭礼の神幸行事にかなり厳しい慣例が生まれたが、埴三カ村では大事な行事としてこれを守り続けている。町中を練り歩く神輿や、埴祭りばやしなどの演奏も行われる。



はなわりゅうとうはなびたいかい
⑫埴流灯花火大会

毎年盆の8月15日に行われるお祭り、先祖供養の行事として昭和5年から行われている。川上川に灯籠等3,000個が流され、約3,000発の花火が打ち上げられる。灯籠と花火の共演が見事であり多くの観光客が訪れる。



たなか げんぞう い つか
⑬田中愿蔵の言い伝え

水戸藩の天狗党を率いた田中愿蔵は、党分裂後、追手を逃れて八溝山にこもったが、食料も尽き果てて下山した。埴代官所の役人に捕らえられた愿蔵は取調べを受けた後、21歳の若さで久慈川の河原で処刑された。



かね
⑭金ころばし

まじめな坑夫が珍しい金の塊を発見し、大喜びで家へ帰る途中、迎えにきたかんしゃく持ちの「かかあ」に会った。何日も帰らない坑夫に腹を立てていた「かかあ」は、金塊を崖下の八溝川めがけて投げつけた。以来、この地を金ころばしと呼ぶようになったという。



どう
⑮まんだら堂

旅人等を殺してはお金を奪って暮らしていた朝日長者に、あるとき天罰が下り、大事な息子7人全員を亡くしてしまった。諸国修行の先で僧から教えられたとおり、帰郷後お堂を建て、まんだら供養を行ったという。



こそだ じぞう
⑯子育て地蔵

昭和5年、代官埴陣屋跡地に安置された銅造地藏尊半跏像。飢餓による子どもの发育悪化を食い止めようと尽力した寺西重次郎代官が尊信し、民風改善の拠り所として子育てを奨めたので、子育て地蔵尊と呼ばれるようになった。



はちまんだろうよしえ だいたいじ
⑰八幡太郎義家の大蛇退治

つねとよむら
常豊村の湖に人を引きずり込む大蛇がいるというので、義家の家来・源八郎が退治に向かった。源八郎までもが蛇に飲み込まれてしまったので、怒った義家は湖を干させて、姿を現した大蛇に矢を放って見事に敵討ちを果たしたという。



ちやうじゃ はなし
⑱長者の話

ゆじまたうわだい
湯岐上台の高台に源左工門という何事にも48にあやかり、縁起を担ぐ長者が住んでいた。それからずっと後、刀鍛冶のかじゃくば長者や坑夫のほどくば長者といわれる長者が住んでいたことから、昔からこの辺りには長者が住むと言われている。